

第 49 回 年次大会報告

1. はじめに

公益社団法人日本技術士会北海道本部の第 49 回年次大会が 2014 年 7 月 9 日(水) ホテル札幌ガーデンパレスで開催されました。年次大会資料を、本会誌後ろの年次大会報告に掲載していますのでご覧ください。ここでは会議の概要と講演会、懇親会の様子を中心に報告します。

2. 年次大会(15:30～16:25)

今回は定期報告を中心とした 4 つの事項が報告され、質疑応答が行われました。



写真-1 右より能登本部長、中野・大熊・布村副本部長

(1)出席状況

- ・会員 121 名
- ・会友 21 名 合計 142 名

(2)開会挨拶

能登本部長より技術士会全体の厳しい現状として、全国平均で 20%に満たない会員登録状況から、財政的に窮し、経費削減の一環で本部機能の一部移転等も検討されているとの説明がありました。一方、北海道本部は全国平均を上回る 30%超の登録率と、会友約 900 名、事務局の努



写真-2 能登本部長開会挨拶

力等から、比較的健全な財政で運営されており、今後とも、会員・会友の協力により地域への発信、社会貢献などの活動の取り組みが進められていくこととなる、とのお話でした。

(3)報告事項と質疑応答

①第 1 号報告(平成 25 年度事業・決算報告)

森事務局長より、昨年度札幌で開催した全国大会の収支決算を含む、平成 25 年度の事業及び決算報告が行われ、花田会計監事より適正かつ問題の無い旨の監査報告がありました。これに対する会場からの質問・意見等はありませんでした。

②第 2 号報告(平成 26 年度事業計画・予算説明)

前号に続いて、平成 26 年度の事業計画と予算についての説明が行われました。

今年の事業計画では、一般会計では、既定の事業を従来どおり実施する計画ですが、各経費コストカット

により財政収支の健全化を図ります。予算規模は全国大会が無い分縮小となり、約 1,800 万円規模となりますが、消費増税 8%の影響が支出の不確定要素です。なお、特別会計(試験業務)は予算・支出共に約 240 万円の単年度収支バランスを予定しています(詳しい予算内訳等は、本会誌後ろに掲載の大会資料を参照願います)。

これに対し会場からは、「総合技術監理の視点から組織の合理的運営や、より戦略的な予算運用を考えていく必要がある。」とのご意見があり、本部長からは、今後鋭意検討していく旨の回答となりました。

③第 3 号報告(委員会等役員を選任について)

平成 26 年度の北海道本部委員会等の一部役員交



写真-3 質疑応答風景

代について、能登本部長より報告と紹介が行われました。

④第4号報告(日本技術士会会長表彰者)

表彰規則第5条に基づく会長表彰の受賞者について、事務局より報告・紹介がありました。北海道本部からは、加藤龍一氏、永瀬次郎氏、増田博昭氏、の計3名が受賞されました。



写真-4 受賞者(左から加藤氏、増田氏、永瀬氏)
(懇親会より)

(4)閉会

報告事項4件に続いて、事務局から統括本部活動報告があり、その後、能登本部長の閉会宣言により年次大会は滞りなく終了しました。

3. 講演会(16:30 ~ 17:30)

今回は北海道大学大学院情報科学研究科から山本強教授をお迎えして「今ここにあるビッグデーターデジタルデータでみる自然現象と社会現象ー」と題してご講演を賜りました。



写真-5 山本強教授

(1)講師のご経歴

北大工学部電子工学専攻から同大学院博士課程を経て富士通㈱へ入社。その後北大工学部講師、助教授、大型計算機センターを経て、現在は情報科学研究科教授と情報基盤センター長を兼任されています。

(2)講演について

- ご講演は、最近の情報処理技術分野の事情に関し、
- ・近年 ICT 処理技術が進歩して、データ記憶領域コストが大幅に軽減されたことから、いわゆるビッグデータの活用がクローズアップされている。
- ・膨大なデータを扱うには可視化技術が重要なリテ

ラシーであり、網羅的なデータから仮説→検証する人間の知力を補強する技術と理解すべき。

といった内容に実例を交え、巧みな話術と共に聴講者を惹きつける、大変興味深いものでした。



写真-6 ご講演風景

4. 懇親会(17:45 ~ 19:30)

定刻 17:45 より会場を隣の部屋に移して懇親会が開催されました。懇親会は会員他 73 名の出席によりほぼ満席での催しとなりました。

森事務局長の進行により、能登本部長の開会挨拶、中野副本部長の乾杯の音頭にて開宴となり、懇親会がスタートしました。



写真-7 懇親会風景

開宴後は会長表彰受賞者3名のご紹介とご挨拶があり、その後、本日の講演者山本教授からのご挨拶、本会のご感想を戴きました。各テーブルでは乾杯と歓談が続き、活発な意見交換、名刺交換等の交流が行われました。そして、名残惜しさも尽きないままお開きの時間となり、大熊副本部長の一本メを以って懇親会は中締めとなりました。

5. おわりに

平成 26 年度の活動は既に始まっていますが、今後とも技術士会に対する会員・会友の皆様の積極的なご支援・ご協力を何卒よろしくお願い致します。

羽二生 望 (はにう のぞむ)

技術士(建設/総合技術監理部門)

日本技術士会北海道本部 事務局次長
株式会社ドーコン

